

平成 29 年度事業報告書

I 公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 法人概要

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

この法人は、持続性可能な社会、すなわち低炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現するため、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与することを目的とする。

(2) 概 況

ア 設立年月日

平成 13 年 2 月 14 日

イ 出捐金

金 50,000,000 円（全額京都市出捐）

ウ 実施事業

- (ア) 環境意識の普及、啓発に関する事業
- (イ) 環境情報の発信事業
- (ウ) 環境保全に関する調査、研究に関する事業
- (エ) 環境教育及び人材育成に関する事業
- (オ) 環境保全のための市民、事業者等との連携、支援に関する事業
- (カ) 環境意識の向上のための国際的な連携、支援に関する事業
- (キ) 環境保全活動に関する施設の管理運営
- (ク) その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況（平成30年3月31日現在）

(1) 役員等の数

理事長 1人 専務理事 1人
 理事 7人 監事 2人 評議員 12人

(2) 役員等名簿

ア 役員名簿

（敬称略・順不同）

役職	氏名	備考
理事長	高月 紘	京都大学名誉教授
専務理事	浅野 和子	公益財団法人京都市環境保全活動推進協会事務局長
理事	杵本 育生	特定非営利活動法人環境市民代表理事
〃	田浦 健朗	特定非営利活動法人気候ネットワーク事務局長
〃	橋本 直子	株式会社 Hibana 代表取締役
〃	花田真理子	大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授
〃	久山喜久雄	フィールドソサイエティー代表
〃	水山 光春	京都教育大学教授
〃	松浦 卓也	京都市環境政策局地球温暖化対策室担当部長
監事	野村 克章	税理士
〃	村中 俊文	京都市環境政策局環境企画部長

イ 評議員名簿

（敬称略・順不同）

役職	氏名	備考
評議員	浅利 美鈴	京都大学地球環境学堂准教授
〃	市川 智史	滋賀大学環境総合研究センター教授
〃	土山希美枝	龍谷大学政策学部准教授
〃	中田富士男	京都市ごみ減量推進会議理事
〃	永橋 爲介	立命館大学産業社会学部教授
〃	長屋 博久	有限会社村田堂取締役
〃	原 強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都理事長

〃	山元 新司	株式会社京都銀行公務・地域連携部地域活性化室長
〃	糸 善子	有限会社思風都代表取締役会長
〃	周 瑋生	立命館大学政策科学部教授
〃	田中 克	京都大学名誉教授
〃	森元 正純	京都市環境政策局地球温暖化対策室長

3 理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会

	開催日	審 議 事 項	結果
第 16 回	平成 29 年 5 月 24 日	議第 1 号 平成 28 年度事業報告書（案） 議第 2 号 2016 年度～2025 年度中長期事業計画（報告） 議第 3 号 平成 28 年度決算報告書（案） 議第 4 号 定時評議員会の日時及び場所並びに目的 である事項等（案）	承認 承認 承認
第 17 回	平成 29 年 7 月 4 日	<書面決議> 議第 1 号 理事の利益相反取引に係る承認の件（案）	承認
第 18 回	平成 29 年 11 月 27 日	議第 1 号 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について（報告） 議第 2 号 事業運営委員会設置規則改正について（案）	承認
第 19 回	平成 30 年 3 月 12 日	議第 1 号 平成 30 年度事業計画書（案） 議第 2 号 平成 30 年度予算書（案） 議第 3 号 特定費用準備資金等取扱規則の制定について（案） 議第 4 号 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況（報告） 議第 5 号 3 団体のあり方について（報告） 議第 6 号 事業運営委員会及び作業部会のまとめ（報告）	承認 承認 承認

(2) 評議員会

	開催日	審 議 事 項	結果
第 7 回	平成 29 年 6 月 16 日	議第 1 号 平成 28 年度事業報告書 (報告) 議第 2 号 平成 28 年度決算報告書 (案) 議第 3 号 監事の選任 (案)	承認 承認

4 職員数 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

(単位：人)

年 度 末	理 事 長	専 務 理 事	総 務 課						事 業 課							合 計	
			事 務 局 長	課 長	課 長 補 佐	事 務 職 員	再 雇 用 職 員	小 計	部 長	課 長	課 長 補 佐	事 業 職 員	事 務 職 員	研 修 職 員	臨 時 職 員		小 計
29	1	1	(1)	1	0	3	1	5	1	3 (1)	1	11	1	3	2	21	28

※事務局長は、専務理事が事務取扱としている。また、事業課長のうち 1 名は、事業部長が事務取扱としている。事務取扱対象者には、()で表示をしている。

II 平成 29 年度実施事業内容

I 公益目的事業

【1】環境学習・環境保全活動支援事業

受託事業 京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）指定管理業務

- 1111 環境の保全に関する活動のための施設の提供
- 1121 環境の保全に関する資料及び装置の展示
- 1131 環境の保全に関する情報の収集及び提供
- 1141 啓発冊子発行
- 1142 環境副読本発行
- 1143 広報誌の発行
- 1144 ホームページ等による情報発信
- 1145 各種講座や講演会の企画と実施
- 1146 各種団体との連携事業
- 1147 環境ボランティアの育成
- 1148 環境保全活動に関わる人材の育成
- 1149 海外との交流
- 1150 大学生の環境活動支援

【2】国際事業

- 1201 J I C A 課題別研修「廃棄物管理能力向上」業務
- 1202 J I C A 草の根事業「イスカンダル・マレーシア地域における低炭素社会づくりに向けた人づくり・地域づくり」プロジェクト
- 1203 J I C A 日系研修受け入れ業務
- 1204 J I C A 中国 日中友好環境保全センター「環境にやさしい社会構築プロジェクト」支援業務（研修受託業務・専門家派遣）
- 1205 その他国際事業（調査、案件形成等）

【3】地域環境活動支援事業

- 1301 京都市「エコ学区」事業に係る学習会等支援業務
- 1302 京都市「市民協働発電制度地域コミュニティ版コーディネーター派遣業務」

【4】講師派遣事業

- 1401 講師派遣・講座の企画実施（セミナー・研修・イベント等）

【5】調査・研究・開発・発信事業

- 1501 これまで蓄積してきたノウハウのソーシャル・ビジネス化

II 収益事業

- 5101 施設の使用許可及び公金徴収事務

1. 公益目的事業

【1】環境学習・環境保全活動支援事業（事業番号 1111～1150）

京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター・以下「センター」）指定管理業務について、4年間の指定管理期間の1年目として、以下の事業を実施しました。

入館者数は、93,009名（10万人を超えた前年度、前々年度と比較すると、7,000名強の減少）となりました。親子向け大型イベント等を縮小し、業務の効率化を行った一方、大人や関心層を対象としたシンポジウムや講座等に注力することで、質の高い内容を提供することができました。

※以下の下線部は、平成29年度事業計画書の記載内容を転記。

1111 環境の保全に関する活動のための施設の提供

学校や自治会、PTAなど団体での来館者に対しては見学目的に合わせ、気づきから行動につながる環境学習プログラムを充実させ、提供します。また、見学内容を効果的に伝えるための広報を行います。一般来館者には、アンケート調査を実施し、提供する施設内容の充実につなげます。

（平成29年度結果）

団体見学では、国内外から様々な団体の見学受け入れを行ないました。年間受け入れ件数は、団体見学が182件5,517名、京都市立小学校を対象にしたセンター学習が163件4,608名、合わせて345件10,125名の受け入れを行いました。前年同期と比べて団体見学は9%（499名）、エコ学習は16%（647名）増加しました。

また、団体見学を広く広報し、見学者数の増加を図るために、京都市近隣の小学校や旅行会社を対象にした団体見学チラシをそれぞれ配布しました。

来館者アンケートでは、年間（2017年8月～2018年3月実施）で244件の回答を得ました。来館目的に関する設問では、「木のおもちゃひろば利用」が22%、次いで「イベント参加」が21%、「たまたま（来館した）」が14%という結果になりました。満足度に関する設問では、「また来館したい」が88%、「どちらでもない」が10%、「来館したくない」3%という結果になりました。

1121 環境の保全に関する資料及び装置の展示

センター常設展示コーナーの展示物について、企画、開発、保守、改善を行います。また、期間限定の企画展示を年間で複数回開催します。

（平成29年度結果）

展示リニューアルに向け、8月に6施設を視察しました。その後、事業運営委員会及びボランテ

ィア全体ミーティングにおいて、リニューアルに向けた方向性を説明し、委員およびボランティアからも意見をいただきました。それらの意見も踏まえ、リニューアル内容を検討しました。また、リニューアルに向けた計画の資料を作成しました。

企画展示は、主催の企画展示 4 件、共同主催型企画展示 3 件、計 7 件を開催しました。特に今年度は地球環境京都会議(KYOTO+20)の開催に合わせ、夏から「世界で取り組もう地球温暖化防止！～京都議定書誕生 20 周年記念展～」を開催しました。また、秋からは「世界の人々の暮らしから考える、地球温暖化問題～京都議定書誕生 20 周年記念展～」を開催し、企画展示を通して地球温暖化防止への啓発を行いました。

木のおもちゃひろばは、年間で 7,652 名の利用がありました。

	開催期間	事業名(共催団体等)	進捗状況
1	7月7日～8月29日	公募型企画展「平成28年度(第14回)京都環境賞受賞者の活動紹介パネル展示」 (京都市環境政策局環境企画部環境管理課)	終了
2	7月22日～1月14日	「世界で取り組もう地球温暖化防止！～京都議定書誕生20周年記念展～」	終了
3	10月25日～11月8日	公募型企画展「第33回京都まちとみどり写真コンクール展示会」 (京都府都市計画協会、京都市建設局みどり政策推進室)	終了
4	11月1日～1月14日	「世界の人々の暮らしから考える、地球温暖化問題～京都議定書誕生20周年記念展～」	終了
5	11月14日～12月13日	「2018年 環境カレンダー原画展」	終了
6	1月23日～2月2日	公募型企画展「平成29年度『まちかど生きもの観察記』受賞作品展」 (京都市環境政策局環境企画部環境管課)	終了
7	2月6日～3月31日	「もり森もくもりん林展～森林の川上から川下へ～」	終了

1131 環境の保全に関する情報の収集及び提供

国、地方公共団体や市民活動団体の環境保全に関する情報を随時収集することに努め、市民の求めに応じて、学習・研修等のアドバイスを行います。

また、収集した情報をかんきょう図書コーナー等において利用者の閲覧に供するための体制強化を行います。

(平成 29 年度結果)

かんきょう図書コーナーを通して、市民に環境について関心を高める機会を提供しました。年間で貸出人数 680 名、貸出冊数が 2,334 冊ありました。また、年間で 451 冊の資料を新たに追加しました。

また、12 月 3 日(日)に図書イベント「絵本読み聞かせ『おはなし会』」を実施し、11 人の参加がありました。12 月 14 日(木)には蔵書点検作業を実施しました。

1141 啓発冊子発行

より多くの市民、事業者等に環境保全について理解してもらうため、身近なテーマを取り上げ、絵や写真、グラフ等を用いてわかりやすく説明し、A4判4ページ相当以上のものを年1回、新たに発行します。

(平成 29 年度結果)

市民の環境意識を高めることを目的に啓発冊子を作成しました。2017年度は、KYOTO+20開催に合わせ、「地球温暖化防止」「京都議定書誕生 20 周年」をテーマに作成しました。3 月に 6,500 部を印刷し、館内に設置、および環境関連団体等に配布を行いました。

1142 環境副読本発行

地球温暖化をはじめとする環境問題をテーマとし、小学4年生用、5年生用、中学生用を作成し、市内すべての小学校(国・公・私立193校)、中学校(同104校)に京都市の発行物として配付します。※学校数は2016年度実績

(平成 29 年度結果)

平成 30 年度版環境副読本を作成し、京都市内の全小中学校や関連機関・協力団体等に配布をおこないました。総合的な学習の時間や各教科内で環境をテーマに学習する際に活用されます。センターHP への掲載を行い、平成 30 年度版環境副読本のダウンロードや、学習の補助教材として活用できるインタビュー動画を見ることができるようになりました。また、環境副読本の活用を増やすため、授業指導案の募集を行い、活用事例の紹介を HP 上で掲載しました。小学 4 年生用、小学 5 年生用各 14,500 部、中学生用 15,500 部を印刷しました。

1143 広報誌の発行

区役所やまち美化事務所など京都市関係行政機関のほか民間活動団体、児童館、保育所などに来所する人を対象に、センターで実施しているイベント情報や環境保全活動に取り組んでいる事業者等の紹介記事を通じて環境問題を提起し、環境意識の普及・啓発を図ります。

(平成 29 年度結果)

季刊誌『えこせん』を隔月での年 6 回、毎号 5,500 部 (昨年度より 500 部増) 発行し、センター館内や市内各所に配架しました。季刊誌のコンセプト「京のくらしと人とエコ」やメインの読者層である親子層や女性を意識し、様々な切り口から家庭で取り組めるエコライフを紹介するなど、読みやすい誌面づくりを行いました。また、特集とセンターで実施するイベントやかんきょう図書コーナーと関連付け、読者にセンターへの来館や利用を促すようにしました。

発行号	発行日	特集 1	特集 2	進捗状況
#49 (7月号)	6月20日	地球環境デザイン研究所 ecotone 代表 太田航平氏	水だけでもできる！簡単でかわいいキッチン菜園	発行済
#50 (8月号)	7月20日	ハニールネッサンス 米川安寿氏	探してみよう 考えよう 土から生まれるオーガニック	発行済
#51 (10月号)	9月20日	作庭家 小川治兵衛氏	読書の秋、到来！ 手づくりブックカバーで本をおしゃれに	発行済
#52 (12月号)	11月20日	花背 WARA デザイナー 藤井桃子氏	作ってみよう調味料&加工品	発行済
#53 (2月号)	1月20日	東林院 住職 西川玄房氏	やってみよう，“わが家の味”味噌づくりにチャレンジ！	発行済
#54 (4月号)	3月20日	銘木師 中川典子氏	楽しみ方いろいろ ハーブのあるゆたかな暮らし	発行済

1144 ホームページ等による情報発信

ホームページの更新やメールマガジン等による情報発信を定期的に行い、環境保全に関する話題やセンターの活動を広く紹介し、センターの利用者数の増加を図ります。現行ホームページをより良いものにするため、リニューアルを行います。また、フェイスブックやツイッターの利用を行い、拡散性の高い情報発信を行います。

(平成 29 年度結果)

イベント案内チラシを隔月で年 6 回、約 4,200 部発行し、センター館内や市内各所に配架したほか、ホームページやメールマガジン、外部のイベント情報媒体等を活用して情報発信をしました。プレスリリースは合計 9 件行いました。その他、教育旅行冊子やフリー

ペーパーから環境に関する記事の執筆依頼を受け、原稿を作成する等、広くイベント情報や環境に関する情報の発信を行いました。また、市営地下鉄 12 駅 25 面の電照看板と竹田駅のステップ広告を行いました。また、ホームページのリニューアルに向けて、情報の精査や収集をし、リニューアルに向けてのサイトマップ案を作成しました。・ホームページのリニューアルに向けて、ホームページ制作業者にヒアリングを行い、新たなホームページの仕様の検討を行いました。

1145 各種講座や講演会の企画と実施

パートナーシップで、市民が興味を持ちやすく、家庭や学校、職場、地域等での実践につながるような、身近な暮らしや社会に関連した内容のイベントを企画実施します。

大型イベントや、夏休みイベント、センター屋上で行う通年イベントの他、既存イベントの絞り込みを行うとともに、大人や実践者向けの講座・講演会・映画会や親子向けお話し会など、新たな企画も実施していきます。

(平成 29 年度結果)

親子向けから環境に関心のある大人の方まで、幅広い層に、楽しみながら暮らしの中で出来るエコや持続可能な社会について学んでいただけるイベントを企画・実施しました。自然環境とこれからの暮らしをテーマとした大型イベントや 2R をテーマとしたお金のいらないフリーマーケット、エコクッキング、木の工作、エネルギー、大人向けの映画会など多様なテーマのイベントを実施しました。「えこそらキッズ」では、抽選で選ばれた小学 1～4 年生とその家族 48 名を対象に、屋上の田畑やビオトープで、1 年間の継続プログラムを実施しました。

実施件数:46 件 (うち、大型イベント開催は 1 件)、参加者数 : 3,528 名

開催日	事業名	講師	参加人数
4 月 29 日	京エコロジーセンター開館 15 周年&アースデイ記念イベント シンポジウム「豊かな暮らしと地球環境 ～サステイナブル社会への新たな視点～」	高月紘 氏 (京エコロジーセンター館長) , 浅岡美恵 氏 (NPO 法人気候ネットワーク理事長) , 石田秀輝 氏 (東北大学名誉教授)	93
5 月 20 日	第 1 回 えこそらキッズ		44
5 月 27 日	「日本の木でおもちゃを作ろう! マウスボカン」	松島洋一氏(木のおもちゃ作家)	27
5 月 27 日	「日本の木でおもちゃを作ろう! メリーゴーランド」	松島洋一氏(木のおもちゃ作家)	35

6月7日	「映画『0円キッチン』」上映会		71
6月10日	第2回 えこそらキッズ		25
6月30日	「親子で食べたい！体が喜ぶ旬の重ね煮クッキング」	小田桂子氏（いんやん倶楽部）	17
7月1日	第3回 えこそらキッズ		41
7月5日	映画『幸せの経済学』上映会		63
7月22日	映画『アリのままでいたい』上映会		195
7月22日	第4回 えこそらキッズ		31
7月25日	生きもの探偵団		18
7月29日	雲ってなあ〜に？ 雲を知って、お天気博士になろう！	一般社団法人日本気象予報士会関西支部 楽しいお天気講座	82
8月2日	キュービックモンスター作るぞ！	多胡歩未氏（arumitoy）	81
8月3日	エコと太陽光発電教室	パナソニック株式会社エコソリューションズ社CS部	52
8月4日	紙すき体験 ～紙パックから絵はがきづくり～	宝ホールディングス株式会社	70
8月5日	第5回 えこそらキッズ		40
8月8日	葉っぱや草花でしおりを作ろう！	名神深草森の会	122
8月20日	子どもクッキング教室～自分でつくるカンタンごはん～	平田早紀子氏（管理栄養士）	22
8月26日	第6回 えこそらキッズ		36
9月9日	第7回 えこそらキッズ		30
9月22日	映画 simplife 上映会		8
9月23日	映画 simplife 上映会		10
9月30日	第8回 えこそらキッズ		19
10月9日	発見！いきものの「すごい」と「ふ	株式会社堀場製作所	11

	しぎ」センサーの力		
10月21日	第9回 えこそらキッズ		27
10月28日	草木染体験～自然の色を楽しもう！～	青木正明氏(天然色工房 手染メ屋)	17
11月5日	カカオ豆からチョコレートを作ろう！	Dari K 株式会社	59
11月11日	第10回 えこそらキッズ		25
11月13日	家族と同じレシピでOK！重ね煮離乳食講座	小田桂子氏(いんやん倶楽部)	29
11月25日	第11回 えこそらキッズ		24
12月1日	第12回 えこそらキッズ(グループ①)		17
12月1日	第12回 えこそらキッズ(グループ②)		24
1月13日	木で作る離乳食用スプーン教室	川口なおこ氏(トナリ木工)	23
1月13日	第13回 えこそらキッズ		33
1月21日	映画「いただきます みそをつくる こどもたち」上映会		63
1月27日	第14回 えこそらキッズ		27
1月28日	ていねいに暮らしを創る～エコ・コミュニティ入門～①	今堀洋子氏(追手門学院大学), 河合史恵氏(NPO 法人トランジション・ジャパン理事)	25
2月4日	おうちで挑戦！My 味噌づくり！	平田早紀子氏(管理栄養士)	55
2月4日	ていねいに暮らしを創る～エコ・コミュニティ入門～②	畑明宏氏(NHK テレビ講師 / ガーデニング研究家 / 樹木医)	20
2月17日	映画『小さな世界はワンダーランド』上映会		92
2月18日	ていねいに暮らしを創る～エコ・コミュニティ入門～③	伊藤洋志氏(ナリワイ代表)	26
2月25日	発見！体験！ネイチャーワールド～生きものから学ぶ未来の暮	京都大学 生存圏研究所, 京都市動物園, 京都府環境部自然環	1,083

	らし～	境保全課, 京都府保健環境研究所, 草木のはちみつ, 月桂冠株式会社, 株式会社昆虫食のentomo, 東大阪大学短期大学部, 琴引浜ネイチャークラブハウス, バルネオカメラプロジェクト, 羊の原毛屋スピナツ / スピナツ出版株式会社, 武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園, 株式会社堀場製作所, 有限会社ワールド牧場, imagami いまがみ, 手作りパン工房 SUZUPAN	
3月4日	ていねいに暮らしを創る～エコ・コミュニティ入門～④	小野雅司氏 (サイエンス研究所 / アズワンネットワーク鈴鹿コミュニティ)	28
3月16・17・18日	フリーフリーマーケット 道具編 in エコセン	ひのでやエコライフ研究所	250
3月21日	映画「みつばちマーヤの大冒険」上映会		188
3月31日	映画「人生フルーツ」上映会		150

1146 各種団体との連携事業

市民, NPO, 事業者等との連携を図り, 求めに応じて幅広い環境保全活動を対象とした総合的な支援を行います。地域での環境活動が活発に行われるような学習プログラム等の実施や, 京都市内の中学校からの職場体験受入等を行います。

(平成 29 年度結果)

地域コミュニティと連携して, 京都市内の元学区に, ボランティア延べ 106 名を派遣して, ブース出展や学習会等の環境啓発プログラムを行いました。

また, 教育機関と連携して, 京都市教育委員会が実施する「生き方探求・チャレンジ体験」推進事業において, 上京中学校の生徒 3 名の職場体験を受け入れました。

その他, 立命館大学国際平和ミュージアム・伏見エコライフプロジェクト・伏見中央図書館・桃山地域女性会と連携した事業を実施しました。

地域コミュニティとの連携 実施一覧

	日にち	名称	会場	実施体制	内容
1	4月23日	南太秦小学校 春まつり	南太秦小学校 グラウンド	出展	太陽熱温水器 の展示 等
2	6月28日	安寧学区 くらしの匠・説明会	安寧自治会館	学習会	省エネに関する講義 等
3	7月8日	岩倉明德学区 おもちゃ交換会	花園町公民館	出展	おもちゃの交 換会
4	7月16日	板橋学区 板橋まつり	伏見板橋小学校	出展	発電体験 等
5	7月19日	安寧学区 くらしの匠・第1回集会	安寧自治会館	学習会	省エネに関する講義 等
6	7月22日	上鳥羽学区 上鳥羽夏の夜市	村山公園	出展	発電体験 等
7	7月29日	松ヶ崎学区 夏祭り	松ヶ崎小学校	出展	発電体験 等
8	7月29日	柘野学区 夏祭り	柘野小学校	出展	発電体験 等
9	7月29日	安朱学区 夏祭り	安朱小学校	出展	発電体験 等
10	7月30日	久多学区 久多ふるさとまつり	久多の里 自然環境活用 センター	出展	発電体験 等
11	8月5日	梅逕学区 梅逕夏祭り	元梅逕中学校	出展	発電体験 等
12	8月5日	楽只学区 楽只まつり	楽只小学校	出展	発電体験 等
13	8月6日	桃山東学区 桃山東夏祭り	桃山東文化ホー ル	出展	発電体験 等
14	8月9日	安寧学区 くらしの匠・第2回集会	元安寧小学校	学習会	省エネに関する講義 等
15	8月19日	立誠学区 高瀬川夏祭り	元立誠小学校	出展	発電体験 等
16	8月19日	開智学区 開智夏祭り	元開智小学校	出展	発電体験 等
17	8月23日	安寧学区 くらしの匠・第3回集会	元安寧小学校	学習会	省エネに関する講義 等
18	8月26日	待鳳学区 待鳳まつり	待鳳小学校	出展	発電体験 等
19	9月3日	太秦学区 ECO フェスタ 2017 UZU まさ	笑顔ランド太秦	出展	発電体験 等
20	10月8日	池田学区 スポーツフェスティバル	池田小学校	出展	発電体験 等

21	10月14日	待賢学区 たいけんカーニバル	元待賢小学校	学習会	発電体験 等
22	10月15日	葵学区 葵学区親子まつり	葵小学校	出展	発電体験 等
23	10月23日	久我学区 くらしの匠・説明会	久我自治連合会館	学習会	省エネに関する講義 等
24	11月5日	朱雀第二学区 朱雀第二ふれあいまつり	朱雀第二小学校	学習会	紙芝居の読み聞かせ 等
25	11月11日	久我学区 くらしの匠・第1回集会	久我自治連合会館	学習会	省エネに関する講義 等
26	11月12日	下鴨学区 下鴨ふれあいまつり	下鴨小学校	出展	発電体験 等
27	11月18日	板橋学区 秋のつどい	伏見板橋小学校	出展	発電体験 等
28	11月19日	小川学区 ふれあいまつり	京都市立みつば幼稚園	出展	発電体験 等
29	11月27日	久我学区 くらしの匠・第2回集会	久我自治連合会館	学習会	省エネに関する講義 等
30	12月2日	銅駝学区 くらしの匠・説明会	藤和シティホームズ河原町二条 A X I S 集会所	学習会	省エネに関する講義 等
31	12月9日	久我学区 くらしの匠・第3回集会	久我自治連合会館	学習会	省エネに関する講義 等
32	12月10日	金閣学区 焼き芋大会	金閣小学校	出展	発電体験 等
33	12月16日	銅駝学区 くらしの匠・第1回集会	藤和シティホームズ河原町二条 A X I S 集会所	学習会	省エネに関する講義 等
34	12月23日	銅駝学区 くらしの匠・第2回集会	藤和シティホームズ河原町二条 A X I S 集会所	学習会	省エネに関する講義 等
35	1月20日	銅駝学区 くらしの匠・第3回集会	藤和シティホームズ河原町二条	学習会	省エネに関する講義 等

			AXIS 集会所		
36	1月21日	滋野学区 新春もちつき大会	京都まなび街 生き方探究館	出展	発電体験 等
37	1月28日	格致学区 格致区民ふれあい広場	下京雅小学校	出展	発電体験 等

1147 環境ボランティアの育成

来館者に対し館内の展示物、環境に配慮した設備を紹介する環境ボランティア（エコメイト）を募集するとともに、任期である3年間で「展示案内ができる/センターの環境学習プログラムができる/センターの概要や事業を説明できる」ようになるため、案内活動の能力向上に向けた研修や自主活動の充実を図ります。

（平成29年度結果）

事務局全体でボランティアのコーディネートを行うとともに、ボランティア全体の活動意欲を高める場を年間7回実施しました。その結果、受付カウンターでのガイド活動における充足率（応募人員/募集定員）は95%となり、ボランティアが自主的に活動を展開するグループ活動では、ボランティアによる自主企画が年間で21件（対外的なイベント・催しは18回）実施されました。

また、ボランティアを対象に、環境問題に関する最新情報や伝え方のスキルを学ぶ研修を、年間9回実施しました。

新規エコメイトの募集においては、京都市内を中心に幅広く広報を行い、応募者に対してエコメイト養成講座を実施しました。その結果、16名が新規エコメイトとして登録することになりました。

◇マネジメントの会

開催日	タイトル	対象	参加人数
4月2日（日）	登録証授与式	エコメイト 京エコサポーター	24
4月2日（日）	スタートアップの会	エコメイト	21
7月2日（日）	ボランティア 全体ミーティング①	エコメイト 京エコサポーター	28
9月10日（日）	中間ふりかえりの会	エコメイト	21
12月23日（土・祝）	ボランティア 全体ミーティング②	エコメイト 京エコサポーター	29

3月25日(日)	年間ふりかえりの会	エコメイト	15
3月25日(日)	修了証授与式	エコメイト 京エコサポーター	26

◇ボランティア研修

	開催日	タイトル	参加人数
第1回	4月22日	効果的な伝え方を知ろう ～マナー&コミュニケーション編～	15
第2回	5月13日	エコセンの設備を知ろう	20
第3回	6月17日	エコセン屋上と生物多様性	26
第4回	7月23日	水に関する情報収集	23
第5回	8月20日	電気に関する情報収集	26
第6回	9月16日	企画の立て方	10
第7回	10月11日	社会見学 ～ごみの最終処分地を見学しよう in 大阪～	33
第8回	11月18日	子どもの来館者対応について	23
第9回	1月21日	COP・地球温暖化最新情報	27

◇エコメイト養成講座

	開催日	タイトル	参加人数
第1回	1月7日	エコセン・ボランティアきほんのき	16
第2回	1月20日	環境問題・エコセンの展示きほんのき	16
第3回	2月3日	環境学習きほんのき	14
第4回	2月17日, 18日	環境学習の場をつくり・まわすきほんのき①②	13
第5回	2月20日 /24日	実習 オリエンテーション	14
	2月26日～ 3月10日	実習期間	29
第6回	3月11日	これまでの講座のふりかえり&登録説明会	11

◇ボランティア企画のイベント

開催日	事業名	実施グループ名	参加人数
6月11日	分け分け大作戦～紙がみ分別ゲーム～	登録グループ 「イベントグループ」	96

6月11日	うちごみ相談所	ワーキンググループ	34
7月27日	エコセン☆夏休みワクワクひろば①	登録グループ 「イベントグループ」	36
8月3日	エコセン☆夏休みワクワクひろば②	登録グループ 「イベントグループ」	18
8月3日	うちごみ相談所	ワーキンググループ	19
8月10日	エコセン☆夏休みワクワクひろば③	登録グループ 「イベントグループ」	25
8月11日	ペットボトルでマイ風力発電機を作ろう	登録グループ 「エコエネ研究会」	61
8月17日	エコセン☆夏休みワクワクひろば④	登録グループ 「イベントグループ」	23
8月17日	うちごみ相談所	ワーキンググループ	27
8月24日	エコセン☆夏休みワクワクひろば⑤	登録グループ 「イベントグループ」	18
10月15日	エコロジーカフェ～食育×エコ“おば んざいで食の未来を語ろう”～①	登録グループ 「♪エコロジーカフ ェ♪の会」	23
11月4日	エコロジーカフェ～食育×エコ“おば んざいで食の未来を語ろう”～②	登録グループ 「♪エコロジーカフ ェ♪の会」	17
12月1日～ 2月24日	特別展示 Book&POP	登録グループ 「図書グループ」	-
12月17日	エコロジーカフェ～食育×エコ“おば んざいで食の未来を語ろう”～③	登録グループ 「♪エコロジーカフ ェ♪の会」	10
12月17日	マイエコライトを作ろう！	登録グループ 「エコエネ研究会」	27
1月14日	「水みず大作戦～水のかしこい使い 方～	登録グループ 「イベントグループ」	77
2月10日	エコロジーカフェ～お茶を飲みなが ら、気軽に環境について話そう～	登録グループ 「♪エコロジーカフ ェ♪の会」	4
2月11日	うちごみ相談所	ワーキンググループ	40

1148 環境保全活動に関わる人材の育成

従前より実施してきた環境教育リーダースタートアップ講座・自然エネルギー普及・啓発プログラムについて、実施パートナーと協議の上、より良い形で実施します。

(平成 29 年度結果)

自然エネルギー学校・京都 2017 では、自然エネルギーの普及・啓発を図るため、企画し実践する人材を養成することを目的に「今こそなろう！再生可能エネルギー100%時代の主役」と題して、自然エネルギーに関する国内外の現状や事例について学べる連続講座を全 4 回にわたり開催しました。また、改正 FIT 法について広く市民に情報提供することを目的に、近畿経済産業局エネルギー対策課の担当者を講師に迎え、「改正 FIT 法セミナー」を開催しました。

環境教育リーダースタートアップ講座では、環境教育実践の担い手を育てるために「子どもと関わる大人」を対象に、環境学習プログラムの基本的な考え方、そして講座で得られた知識を基に企画から実践までを体系立てて学ぶことができる全 6 回の連続講座を実施しました。

1149 海外との交流

環境先進都市として国内外の他都市との連携を図り、国際的な取組の推進に努めます。そのために、展示物の一部について多言語対応を検討・実施します。

(平成 29 年度結果)

センター館内において、日本語を母国語としない、国外来館者にも対応可能な仕組みとして、1 階エントランスにデジタルサイネージ（電子案内板）を 1 2 月に設置しました。タッチパネルを用い館内の主な見どころを、日本語、英語、中国語、韓国語の 4 カ国語で案内しています。

また、2 月には東京都オリンピック・パラリンピック準備局が運営する「2020 年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会ポータルサイト」の「多言語対応取組事例集」にデジタルサイネージが掲載されました。今後は、来館者の利用状況を見ながら必要に応じて設置位置の変更等を行う予定です。

1150 大学生の環境活動支援

大学生への環境活動支援の充実に向けて、大学生が継続的に参画できる仕組み作りを検討・実施します。

(平成 29 年度結果)

リクナビ 2019 インターンシッププレサイトを活用し、応募があった学生の内 2 名が 8 月よりセンター内でインターン活動を開始しましたが、諸事情により辞退することとなりました。その後、当初の業務進行に代わり、センターホームページに大学生の環境活動支援のページを設けることを決定し、内容の検討を行いました。また、損保ジャパン CSO ラーニング制度のインターン活動の一環として、関西地区の学生が作成するカレンダーの製作に協力し、大学や環境活動団体に向けて広報を行いました。

また、大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラム「プログレスコース」にエントリーし、「地球環境京都会議 (KYOTO+20) に向け、大学生から発信!!」プロジェクトを 2 名の学生と実施しました。「2050 年の世界・京都の姿、及びそのために現在の若者世代がすべきこと」について、大学生を中心にアンケートを行い、京都宣言起草委員会 (9 月) にて、回答結果を「若者の意見」として紹介しました。回収した 347 件の結果は、地球環境京都会議の会場でパネル展示として来場者に発信しました。

【2】国際事業（事業番号 1201～1205）

1201 JICA 課題別研修「廃棄物管理能力向上（応用、計画・政策編）」

廃棄物管理に関わる行政職員を主に対象とした本研修では、2ヵ月間に廃棄物管理政策に関わる講義や視察を行うだけでなく、市民参画による廃棄物減量や分別への協力をどのように得るのかという視点で研修を企画・実施します。また、本研修による成果を整理し、わかりやすく発信します。

（平成 29 年度結果）

初めての試みとなる在外補完研修として、ブラジル国サンパウロ市での取組について学ぶ研修を行ない、それに引き続き 8 月末より約 2 か月にわたる訪日での研修を実施しました。廃棄物管理の計画や実施に関わる政府や地方行政等の担当者 10 名を 3 か国（アンゴラ、ブラジル、モザンビーク）から受け入れ、廃棄物の適正な管理や処理、関係組織間の連携、市民と共にごみ減量を進めるための仕組みづくりや市民啓発のための環境教育などの講義や実習を通じ、研修員が自国の直面する廃棄物問題の解決に有効な政策的・技術的知識を習得し、自国での担当業務に学びを活かすことができるように研修を行いました。

1202 JICA 草の根技術協力事業「低炭素社会実現に向けた人・コミュニティづくりプロジェクト」（マレーシア）

2016 年 2 月より 3 ヶ年計画で実施している本プロジェクトにおいて、プロジェクトの 2 年目にあたる 2017 年度も引き続き計画に基づいた事業を展開し、これまでの 2 年間の成果を整理した上で、わかりやすく発信し、海外での事業経験を国内に還元します。

（平成 29 年度結果）

イスカンダル開発地域における持続可能な低炭素社会を目指した段階的な低炭素教育の実施や地域コミュニティ単位の活動に焦点を置き、小学校及びセカンダリースクール（日本における中学・高校に相当）での低炭素教育の実施の支援や、学校を中心とした地域コミュニティでの環境活動の支援、環境活動を推進する人材育成の支援を 3 ヶ年のプロジェクトで行っています。プロジェクトの 3 年目となる平成 29 年度は現地への専門家派遣を 4 回、現地関係者の訪日研修を 2 回実施しました。また、一般公開の中間成果報告会を開催しました。

1203 JICA 日系研修員「環境教育リーダー養成研修（都市型環境教育）」

日系人を対象とした約 1 ヶ月間の JICA 日系研修「(都市型)環境教育指導者」コースを企画・実施します。OJT 形式で協会の業務を行うことを通じた研修内容とし、即戦力の育成を図ります。研修実施後は、その成果を整理し、発信します。

(平成 29 年度結果)

中南米（ペルー、ブラジル）より 2 名の日系研修員を約 1 か月間受け入れました。センターにおける OJT 形式の実習を通じて、環境教育の知識と技術だけでなく、市民参画や協働による環境活動を進める視点を得られるように研修を行いました。実習の一環として環境学習プログラムを企画し、実際に一般来館者へ向けての実践や、一般公開の最終成果報告会を行いました。

1204 JICA 日中友好環境保全センター「環境にやさしい社会構築プロジェクト」支援（中国）

2016 年度より新たに始まった 5 カ年の本プロジェクトにおいては、引き続き、短期専門家派遣等を通じて、中国での環境学習施設の運営や環境教育の推進をはかるための取り組みに、継続して協力を行います。

(平成 29 年度結果)

中国で実施されているプロジェクトへの協力として、2017 年 6 月に北京の日中友好環境保全センターで開催された、日中環境保護ハイレベルセミナーへ出席し、その分科会において、「京エコロジーセンターを拠点とした国内外での環境教育・環境保全活動の推進」を演題にセンターで進めている市民参加型の環境教育活動に関する発表を行い、参加者との意見交換を行いました。

1205 その他国際事業

環境教育、環境学習施設運営、市民参画を通じた国際協力の研修・事業についてのリサーチを随時行い、新たな案件形成につなげます。

インドネシア・スラカルタ市での草の根技術協力事業の提案を 2017 年度の初めに行う予定をしており、採択された場合、2017 年度中のプロジェクト開始を見込んでいます。

(平成 29 年度結果)

国際事業のその他の取組として、特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センターが主催する「異なる文化や価値観を理解・共有し、広い視野と分かち合いの精神を以て社会に貢献できる次世代リーダーを育成する事」を目的に実施されている「若手ソーシャルリーダー育成・交流事業」の一環として、環境問題に関心の高いインドネシアからのインターン生を 1 名、約 1 か月間受け入れました。日本における職場体験だけでなく、インターン生が関心を寄せる市民参画の活動や環境活動について学びました。

平成 28 年度から準備を進めていた、JICA 草の根技術協力事業でのインドネシアでのプロジェクトを、平成 29 年度の春に提案しましたが、残念ながら不採択となりました。

【3】地域環境活動支援事業（事業番号 1301～1302）

1301 京都市「エコ学区」事業に係る学習会等支援業務

京都市内で地域活動の中心的な役割を担っている「学区」に対して、地域性を活かした学区独自のエコ活動、地球温暖化の現状と対策をはじめとする環境保全に関する知識を提供する学習会、省エネ体験会の開催等、地域の意欲に応じた支援業務を実施することで、地域ぐるみのエコ活動を推進します。「エコ学区」ステップアップ事業（200学区対象）と、「エコ学区」事業（22学区対象）において、エコ活動に関する地域プログラムの提供、地球温暖化等に関する学習会の開催、支援物品の配布等の支援を行います。

（平成 29 年度結果）

センターに「エコ学区サポートセンター」を開設し（平日 10 時～18 時）、地域ぐるみのエコ活動についてのワンストップサービスの相談窓口として対応しました。エコ学区として宣言した 222 学区に対し、支援物品の企画・調達・配布、学習会などの実施などを通じて、地域ぐるみのエコ活動を促進しました。

1 年間で計 1,400 回を超える学区へのヒアリングやエコ活動の現場取材、地域への直接アプローチを行い、ニーズに合わせ迅速に対応しました。

また、学区のエコ活動を紹介する啓発資料「エコ学区かいらんばん」を年 2 回発行し、関心のある学区でのエコ活動の促進に努めました。結果として、延べ 64 学区において以下のメニューを実施することができました。

学習会の企画運営 （41 学区実施）	様々なテーマで実施し、2,001 名（大人 932 名・子ども 1,069 名）が参加しました。
エコ学区チャレンジプログラム（1 学区実施）	「小水力発電」をテーマとした連続プログラムを実施しました。
京エコライフプログラム （4 学区実施）	学区が小学校と連携して行う、地域性をいかしたエコ活動を通じて学区のエコ活動が小学生などの家庭や PTA に広がるように努めました。
エコ学区ステップアッププログラム（5 学区実施）	「自治会館×エコ」「健康長寿×エコ」等をテーマとした連続プログラムを実施しました。
省エネナビ（電気消費 量計測機器）を用いた学 習プログラム（3 学区実 施）	集会所などに参加者が集まる形式の学習プログラム「くらしの匠～省エネ実感生活～」を参加者のエコ活動が継続し、地域ぐるみの活動につながるよう、学区の要望を取り入れ、柔軟に対応し実施しました。

啓発ブース出展 (20 学区実施)	様々なテーマで実施し、2,556名(大人604名・子ども1,952名)が参加しました。
地域の担い手セミナー (3回実施)	地域のエコ活動の担い手を育成することを目的に、ウイングス京都にて、「まちづくり環境びと実力アップ講座」を開催しました。(参加者数：大人のべ61名)

1302 京都市「市民協働発電制度地域コミュニティ版支援コーディネーター派遣業務」

京都市では、地域のコミュニティ組織が主体となった再生可能エネルギー利用設備の普及拡大を図ることを目指しており、地域住民の合意形成のほか、当該地域における再生可能エネルギーによる発電事業に関する調査や事業化を検討するコーディネーターや専門家の派遣業務を行います。

(平成 29 年度結果)

太陽光発電・小水力発電の導入を目指し、5 地域に各 7 回派遣しました。

【4】講師派遣事業 (事業番号 1401)

1401 講師派遣・講座の企画実施(セミナー・研修・イベント等)

セミナーやシンポジウムに職員を派遣し、環境学習施設運営や市民参画・ボランティアコーディネーションについての講演や事例発表を行います。

また、依頼元の要望にあわせた出前講座やワークショップの企画実施などを通して、他団体による環境活動を支援します。

(平成 29 年度結果)

講師派遣実績一覧

実施日	事業名	主催
6月23日	JICA 課題別研修「エネルギーの高効率利用と省エネの推進(D)」にかかる研修への講師派遣	一般財団法人 省エネルギーセンター
7月7日	JICA 草の根技術協力事業「湖南省洞庭湖流域農村水環境改善プロジェクト」にかかる訪日研修への講師派遣	公益財団法人 淡海環境保全財団
7月28日	夏休みエコ教室「手作り風力発電機でLED電球をともしよう」への講師派遣	京都生協北ブロック ほっこりこみゆにてい
9月28日	第48回京都消費者大会への講師派遣	特定非営利活動法人コン

		シューマーズ京都
10月4日～10月25日	京都教育大学「環境教育論Ⅱ -実践編-」の企画運営 *履修登録者不足のため途中で閉講	国立大学法人京都教育大学
10月20日	「日中都市廃棄物減量化政策研究ワークショップ 於：中国・青島市」への講師派遣	青島市，龍谷大学他
10月26日 11月1日 11月28日	「洛西地域における生物多様性の取組に係るワークショップ」企画運営	京都市西京区洛西支所
10月28日 10月29日	ボランティアコーディネーション力2級直前研修への講師派遣 *職員が検定試験委員として参画	特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会
10月28日 11月27日	奈良文化財研究所「平城宮跡解説ボランティア基礎研修」への講師派遣	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
11月24日	JICA 課題別研修「博物館とコミュニティ開発」コースへの講師派遣	国立民族学博物館
2月12日	JICA 課題別研修「総合的な廃棄物管理（全般）(E)」にかかる研修への講師派遣	特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会
3月6日	JCL 外国語学院留学生向け研修への講師派遣	JCL 外国語学院
3月10日	イオンチアーズクラブ京滋奈良和歌山地区予選会への審査員派遣	主催：イオンリテール株式会社近畿・北陸カンパニー

講座等の企画実施 実績一覧（共催事業含む）

実施日	事業名	主催
5月11日 6月3日	祇園祭ごみゼロ大作戦2017 ボランティアリーダー育成研修	一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦
6月23日	京都からつながる SDGs シンポジウム～だれも取り残さない社会のつくり方～	主催：京のアジェンダ 21 フォーラム 共催：公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 後援：公益財団法人京都新聞社会福祉事業団
9月30日	木育フォーラム in 京都	主催：京都・木育はぐくみ

		委員会 共催：公益財団法人京都市環境保全活動推進協会
10月1日	木育こども縁日 in 壬生寺	主催：京都・木育はぐくみ委員会 共催：公益財団法人京都市環境保全活動推進協会ほか
5月～12月 (祭典当日) 11月11日 11月12日	第22回「青少年のための科学の祭典～未来をつくるサイエンス&エコ～」実行委員会への参画	主催：「青少年のための科学の祭典」京都大会 実行委員会，公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館，青少年と科学の会
11月18日～ 11月26日	大政奉還 150 周年&京都議定書誕生 20周年記念「地球温暖化防止展 in 二条城」	主催：京都市 企画実施：公益財団法人京都市環境保全活動推進協会
3月1日	SDGs パブリックフォーラム in 京都「SDGs で描く京の未来」	実行委員会 構成団体：京のアジェンダ 21 フォーラム，公益財団法人京都市環境保全活動推進協会，特定非営利活動法人国際協力 NGO センター，一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク，特定非営利活動法人名古屋 NGO センター，特定非営利活動法人関西 NGO 協議会，特定非営利活動法人 NGO 福岡ネットワーク，ODA 改革ネットワーク九州（順不同）

【5】調査・研究・開発・発信事業（事業番号 1501）

1501 これまで蓄積してきたノウハウのソーシャル・ビジネス化

協会がこれまで蓄積してきた、施設運営・環境教育・ボランティアマネジメントや地域活動支援のノウハウ等の資源をソーシャル・ビジネス化するための調査・研究、プログラム開発や、環境ソーシャル・キャピタルの醸成・向上を目指すための調査・研究及び情報発信を行い、協会の将来展望をひらきます。

（平成 29 年度結果）

・京都議定書誕生 20 周年記念 地球環境京都会議 2017 (KYOTO+20)

京都市・大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所・一般社団法人イクレイ日本と共に開催し、「持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言」を発信しました。宣言の中で描かれている「2050 年の世界の都市のあるべき姿」の実現に向け、次年度以降の協会事業において実践するとともに、世界に発信していきます。

・協会プロモーション・ファンドレイジング

協会の組織基盤を固め、持続可能な運営体制を築くためのきっかけとして、パナソニックの実施する NPO サポートファンド（NPO 等の組織基盤強化に特化した助成金）に応募し、書類審査とヒアリングを受けましたが、残念ながら不採択となりました。しかしながら、協会としての組織基盤強化に向けた取組は喫緊の課題ですので、次年度に向けた計画づくりのための情報収集や、活用できる助成金情報の調査を行いました。また、協会ホームページの内容改善に向けた準備を進めました。

実績一覧

実施日	事業名	実施体制
9月2日 9月3日	日本環境教育学会第 28 回大会への参加と口頭発表（ボランティア事業にかかる実践報告、及び国際事業マレーシアでのプロジェクトの実践報告）	主催：日本環境教育学会
9月～通年	日本環境教育学会プロジェクト研究「学校環境教育プロジェクト」への参画	日本環境教育学会 プロジェクト研究「学校環境教育プロジェクト」
11月18日 ～ 11月20日	清里ミーティング 2017 への参加・事例発表	主催：公益社団法人日本環境教育フォーラム
12月10日	京都議定書誕生 20 周年記念 地球環境京	主催：京都市

	<p>都会議 2017 (KYOTO+20) 第3分科会の運営</p>	<p>共催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所，一般社団法人イクレイ日本，公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 後援：環境省，外務省，京都府，京都商工会議所</p>
<p>2月3日 2月4日</p>	<p>ワン・ワールド・フェスティバルへの 出展</p>	<p>主催：ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会</p>
<p>3月20日 3月21日</p>	<p>気候変化対応に向けた韓日国際交流の ワークショップ（於：韓国原州市）への 参加</p>	<p>主催：原州持続可能発展協議会 参加団体：原州環境運動連合，韓国環境展示館ネットワーク，原州市，各地方の持続可能発展協議会，公益財団法人京都市環境保全活動推進協会</p>

II 収益事業

5101 施設の使用許可及び公金徴収事務

センターでは，施設の利用促進を図るとともに，施設の使用許可及び公金徴収事務を行っています。利用できるスペースは会議室2，視聴覚室(シアター)，リサイクル工房(実習室A)，エコ厨房(実習室B)が各1となっています。センターの認知度を上げるための効果的な広報等を，今後も引き続き検討していきます。

利用回数	利用者数	使用料金合計
423	5,158	1,049,000 円

※使用料金は全額京都市の収入となります。

※3月末までの開館日数は，310日です。

※平成28年度実績は，利用回数457回，利用者数5,114名，使用料金合計1,106,000円となっております。

Ⅲ 附属明細書

平成 29 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 30 年 5 月

公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会

～一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則（抄）～

第 34 条 事業報告

3 事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。